

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O470200395		
法人名	社会福祉法人 和仁福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「ぬくもりの家」	ユニット名	
所在地	宮城県石巻市大瓜字箕輪17番地		
自己評価作成日	令和 1年 10月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1年 11月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのペースに合わせ、地域との交流を図り、地域の一員として生活している。自分の家で暮らしていた時と同じように、自分のしたいことができるべくしたい時にできるよう、また、しにくくなったところは少しの支援で今までと同じようにできるよう家族と協力しながら支援している。日々の暮らしの中に、ドライブや買物、外食等の機会を確保、気分転換できるように支援している。皆さんでの活動や個人々の趣味活動も大切に、「その人らしくいきいきと」をもっとうに生きがいをもって生活できるように支援している。利用者同士で廊下や玄関のベンチで話し込んでいたり自由に過ごしていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れた高台に、特養とデイサービスが同敷地内にあり、木造をふんだんに使ったホームがある。「その人らしく生き生きと」を理念に、家庭的な雰囲気の中で入居者の意思を尊重し、自由に行動できるよう安全面に配慮しながら支援している。入居者同士、入居者と職員、職員間もコミュニケーションを取り、何でも話せる仲になっており、明るい雰囲気が漂っている。毎月、計画的に外出し、ストレスがたまらないような配慮をしている。近隣住民との関係も良く、干し柿作りの柿を分けてもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「ぬくもりの家」 )「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつも見えるところに掲示し、目に付くことで意識し実践につなげている。毎年度末に全員で見直しをしている。	理念は「その人らしく いきいきと」であり、毎年ユニット理念を見直している。家庭的な雰囲気や暮らしを大事に、入居前と変わらぬ生活ができるように支援している。新聞を継続して読んでいる入居者もいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域も高齢化が進んでおり、できる範囲内での交流をしている。(夏祭り、物作り教室、芋煮会、庭の花を見せてもらいにいたり、地域の盆踊りに参加、市の防災訓練等)	地域住民との交流は良好である。隣接する特養との夏祭り、芋煮会等回覧板で知らせ多数の参加があった。折り紙やコーラスのボランティアが来訪している。物作り教室には地域住民の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所によく来てくださる方々は、来たときに気をつけていただきたいことを伝えたりで、一緒に活動していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の様子をテレビを使い、説明入りのライブラリー形式で伝えている。運営・取り組みについて意見を交換し、サービスの向上に生かしている。	入居者・家族・地域住民・市職員・居宅支援のケアマネの参加がある。地域住民からは夏祭り等の行事の情報があり参加している。家族から通院が大変との意見があり、家族が対応できない時は、職員が対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいている。また、分からないことは、市役所介護保険課に電話し、確認するようにしている。	市職員が運営推進会議に毎回出席し、情報交換を行っている。市主催の研修に参加している。地域包括支援センターとは常に相談出来る関係で、居室の空き情報や介護計画作成等の相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをしている。また、現在は、委員会を1回/月開催し、意識付けをしている。利用者が自由に生活できるよう職員が見守り等を行っている。	日常的に注意深く見守り、職員全員が情報を共有している。入居者の行動は抑制せず、畑仕事、掃除等やりたいことを支援している。言葉使いにも気を付け、入居者から何か言われたら「ちょっと待って」ではなく「今、行きます」と返事をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば出席し、事業所に持ち帰り、伝講している。また、身体拘束が虐待につながることを意識し、業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、知識を職員間で共有している。現在は無いが、成年後見制度の利用が必要な方には、使用していただいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類の内容を説明し、理解を得ている。また、その都度不安が生じた時点で話し合いをし、解決していくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望を取り入れ運営に生かしている。また、それを運営推進会議でさらに委員の方々や家族にも意見をいただき、反映させている。	家族は職員と何でも話せる仲になっている。時には職員についての意見があり、改善が必要な意見は管理者が注意をしている。家族からは「掃除が行き届いている」等の感謝の言葉がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームという特性を生かした意見について、意見を取り入れ実施している。	年1回個人面談を行っている。法人は資格取得の支援を行っている。職員から「記録を電子化できないか」との意見があり検討中である。職員同士は話し易く、何か困りごとがあれば管理者に相談が出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則が整備されている。人員に余裕が無いが、利用者の楽しみに繋がる活動が制限されないよう日々努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会を計画し、スキルアップする機会が作られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自施設の行事とぶつかり、ブロック集会になかなか参加できない。今後サービスの質の向上を目的に、日程を調整し、勉強会や交流会に参加する予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査ではもちろん、入居してからも利用者の言葉を聴き、また、話しやすい関係を築き積極的にコミュニケーションを取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者との関係に不安を抱えている家族もあり、通院やかかわりがスムーズに行えるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に様子把握と希望を聞き取りする事で、自事業所サービス利用が適切か、他のサービスが良いような時は、そちらを進めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらのことや、利用者が得意なことをしていただき、一緒に作業をする等、共に生きるという方針で関わっており、関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所だけ、家族だけということではなく、協力し合って利用者を支えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前独居だった方が多く、面会には、家にいた時と同じように来ていただけるようお声がけしている。また、希望があれば電話したり、手紙が出せるよう支援している。	兄弟、親戚、孫、家にいたお手伝いさんが面会に来ている。娘と馴染みの床屋に行っている。入居者同士が親しい関係になり居室で話しが弾んでいる方がいる。ボランティアの来訪時に歌を歌い懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室から出てくるとき、声を掛け合ったり、廊下のベンチで話込んでいたり、居室に戻られるときも一緒に戻る等、利用者同士が仲良く生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家、親戚、近所の方々とも入居中と同じように連絡をとれるようにしており、退居後も様子を伺ったり、家族からも近況報告があったり、相談を受けたり、関係が長く続いている方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでも何でも言えるような状態にしており、嫌なことがあった時や、したいことがある時も耳を傾けるようにしている。本人がしたいことはケアプランにあげて支援するようにしている。	日常会話、入浴の時に何気ない会話の中から汲み取っている。「勉強がしたい」との意向があり物作りボランティアに頼み、地域の方々やフェルトで花を作った。畑をしていた方が、庭の畑で野菜を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査のとき、できる限り確認させていただいている。足りなかったことや利用後の利用者の言葉から新しい情報が出てきたときは、その都度家族に確認する等ケアにかせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実態調査での把握はもちろん、入居後言葉の中から探ったり、一緒に活動を行い、本人の残存能力を把握し、申し送り等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・担当に予め考えを聞き、その人らしく活き活きと生活できるよう、定期的にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	月末に職員が各チェック表を基に、カンファレンスを行い、家族の要望を取り入れ、モニタリングしている。家族から「体調を崩すから外出させないで」と要望に、体調に気を付けての外出支援を盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の声を聞き、生活の様子・訴え・身体状況等を記録し、情報を職員間で共有し、かかわりや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は家族対応となっているが、認知症状等により家族対応が大変な時には、管理者が同行し、家族の精神的負担を少なくするように等、柔軟に支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院やスーパー、観光地、公共施設等買物やイベントに出かけたり、利用者の希望に応じて資源を利用している。地域に出て行くことで笑顔多く生き活きされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のことを良く知っているもとのかかりつけ医へ入居されてからも通院されている。状態が変わった時には、家族の相談に乗り、訪問診療や専門医を紹介したり支援している。	入居者全員が家族と通院し、生活状態を持参する。状態変化時は職員も同行している。隣接する特養の看護師に相談することができる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況で受診したほうが良いか様子を見たほうが良いか判断に困った時や、いつもと様子が違い対応に悩む時等、併設施設の看護師に相談する等連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時はムンテラに参加し、家族と共に、本人の情報を提供し、治療できるよう支援している。また、病状によっては、退院後事業所に戻れるよう働き掛けることもある。安心して治療を受けられるよう面会に多くいくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や契約の話の中で、利用条件や事業所で出来ることについて説明している。入居後重度化した場合、家族・医師を含めた話し合いをし、住み替えのための支援を行っている。	入浴支援が困難になった状態を目安にし、その状況に適した施設に移ってもらう事を入居時に説明し同意を得ている。隣接する特養を希望した場合は、連携をとりながら入居を待つ体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予測される利用者個々に対応や連絡についてマニュアルを作成し、家族と共に確認している。また、特変時の対応についてもマニュアルを電話の近くに張り出し、急変時見ながら電話できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応、応急処置、非常食を使った調理、緊急持ち出し、災害にあわせた避難の仕方等毎月図上訓練をし、実際に備えている。	年2回、日中、夜間想定で入居者、消防署、消防団を交えて隣接する特養と合同で行っている。毎月、災害に合わせた避難の仕方を図上訓練で行っている。非常食を使った調理をした。記録に反省等がなかった。	訓練の反省等の記録がないので、次回に反映する為にも記録を残してほしい。災害が発生した時混乱が予想されるので、連絡表等を貼るなど工夫してもらいたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大事に考えており、失礼の無いよう言葉遣いや態度に気をつけている。居室やトイレに伺う時にはノックをし、声の大きさにも気をつけている。	名前、名字に「さん」を付けて呼んでいる。一人ひとりがしたいことを自由にできるように職員は心掛けている。失禁をしている方には「ちょっと確認してね」等のさり気ない声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事では、おやつを選択を、行事や慰問見物・過ごし方等本人の希望を大事にしている。自分で決められない方には、その方が好みそうなほうを選べるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を支援しており、活動に声を掛けるが居室で新聞を読みたい方は、読んでいただき、個人の作り物をされている時は、それを行っていただき、活動の参加も本人の意思を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大概の皆さんは、自分で整容・衣類の選択を行っている。化粧水やクリームが切れないよう家族に協力いただいている。自分でするのが難しい方には、清潔感を失わないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の中で一番楽しいものと認識しており、日常の会話から好きなものを見つけ、メニューに入れたり、誕生日に好きなものを提供している。準備や片付けは、利用者と職員と一緒にしている。	職員が季節にあった献立を考え、隣接する特養の管理栄養士に相談している。誕生日には本人が好きな物を提供している。調理、おやつ作り等も一緒にいき、入居者の出来る事を継続し支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士にメニューチェックしていただいている。水分は、入浴後や外作業の後にも提供し、脱水にならないよう気を配っている。食事の量については一人ひとり違うので、本人の希望で量を少なくしている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、自分で行っていただいている。見守りの必要な方々は、食堂脇の流しで、自立している方は、居室内の流しで行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のタイミングにあわせ世助に入るようにしている。パットは色々なタイプを試行し、一番あうものを使わせていただくよう家族に相談している。排泄介助はいつになっても恥ずかしいものなので、失礼の無いよう自然な形で支援できるように心掛けている。	全員が自立していて、見守りを行っている。あまりトイレに行かない方には、ソワソワしている等の行動を見て声掛けし、誘導している。夜間はセンサーを使わずに物音等で把握し、見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事・活動を行うことで現在の利用者の便秘の方はいない。以前は運動や食べ物で工夫することもあった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方には、なるべく沢山、「今日入りたくない。」という方には、声掛けを工夫し、無理強いはしていない。また、自分で洗髪・洗身できる方で自分でしたい方には自分でしていただいている。	希望通りに入浴ができ、毎日、入浴する方もいる。シャンプー、ボディ石鹸は、個々に準備してもらっている。ゆず湯、菖蒲湯等で季節感のある風呂にしている。肌の乾燥を防ぐためバスクリンを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の過ごし方で、午前中は活動性の高いことを、夕方になるにしたがって活動性を下げ、静かに過ごしていただき、工夫している。また、よる眠れない方には、話を傾聴し、穏やかに眠れるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日使用するケース記録ファイルに各利用者の「お薬の説明」を添付し手織り、目的・副作用・飲み合わせ等、常に目を通し確認している。服薬変更にあわせ、体調の変化変化などを様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活がつまらなくならないよう、食事の支度・食後の作業、役割として自ら進んで手伝っていただいている。また、会話の中からイライラ等の精神状態を把握し、外食したり、買物に同行していただいたりし、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や外食等希望に応じ、出かけるようにしている。最近では、希望者が多く、一度に希望者全員をお連れすることが出来ず、分けて出かけるようにしている。	春は花見、夏は町内会の祭り、秋は紅葉狩り、冬は初詣等毎月外出計画を立て、外食をしている。日常では近隣の散歩、買い物、ゴミ捨て等戸外に出ている。入居者の希望でおいしいものを食べに松島に行ったり、鳴子にドライブに行ったりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は財布を持っていただき、自分で支払っていただく方もいる。多くの方は、「はらってけらい。」と希望される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居前と変わらず、したい方は、知人や家族に電話・手紙のやり取りをしていただいている。知人から電話がかかってきて、取り次ぐこともある。また、荷物や手紙が届いた後は、電話が出来るよう声掛けもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や玄関に椅子を置き、利用者同士で腰掛け、話をしていたり、居室で並んで腰掛け話をしたりしている。また、季節を感じられるように、係りを決め掲示物を工夫している。写真や作品を貼り出している所では、お互いに見ながら会話を楽しんでいる。	木材をふんだんに使ったホームは、天窗から自然光が差し込み明るく、居心地の良い雰囲気を出している。随所にソファがあり、どこにでも腰掛けて話せる。壁面に行事等の写真や習字、手作り作品等を飾り、話題にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内のいたるところで、数人集まって話をしていたり、笑い声が聞こえる。居室で一人が淋しくなると廊下やリビングに自然と集まる人が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の希望を取り入れテレビのほか、コタツ・仏壇・棚・衣装ケース等使い慣れたものを置いていただき、心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッド、クローゼット、エアコン、洗面所が備え付けられていて、清潔感のある居室になっている。コタツ、使い慣れた家具、テレビ、家族の写真、仏壇等を置き、その人らしい居室を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、利用者が職員の手を借りなくても分かるようトイレ・居室の表示、浴室のれん、カレンダーを使用し、自立した生活ができるよう工夫している。		